

## 応募にあたって知っておいて欲しいこと

応募にあたっては、所属先(地方競馬場の厩舎)を決めてからでも、あるいは決まっていなくても構いません。しかし、大切な人生の目標としてこれから進む道ですので、競馬社会を良く理解して応募して下さい。

### 1 騎手という職業

騎手は、プロのスポーツ選手です。二年間でプロの道を目指し、フェアでプレーする精神を身につけます。馬に騎乗する技術ではありません。公正に実施される競馬の中で、常に注目される存在です。

### 2 体重調整

騎手にとって体重を調整することは最も重要なことの一つです。当センターでは教育期間中、個人差はありますが2~4 kg増加しますので、各々の騎手候補生に対し、年齢区分毎に規定体重を指定し、修了時の規定体重 49.0 kgに備えています。

騎手候補生は、栄養管理された毎日の食事以外に、自主的に体を動かし、プロの騎手として通用する体づくりを目指しています。

### 3 起床時間

候補生の1日の流れ

当センターの起床時間は午前5時半。午前中に3頭の実馬訓練と、午後から騎手に必要な教養を得るため学科の授業があります。その内容は法規、馬術、馬学、調教、管理、衛生と多岐に渡り、プロスポーツ選手を目指すためメンタルトレーニングや、体の使い方を習得するためフィジカルトレーニング、武道(剣道)を通して礼儀作法を学びます。

### 4 修了生の感想文から(一部抜粋)

#### ◆第101期騎手候補生K君(令和3年3月修了)

入所して、赤帽の頃は慣れないことばかりで、おそろおそろ馬に接していました。訓練や作業でもたくさん迷惑をかけてしまいましたが、それでも助けてくれる同期がいました。つらい事や大変なこともたくさんあったけど、みんながいたから乗り越えられたし、忘れられない楽しい思い出がたくさんできました。改めて101期で良かったなと思います。所属する競馬場はそれぞれ違いますが、同期に負けまい、日頃からの努力はもちろん、競馬でも1レース1レースを大切に、より多くのことを学んでいきたいです。

訓練で上手くいかない日が続いた時も、先生方の厳しく温かいアドバイスのおかげでやり抜くことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。騎乗日誌のコメントは乗り方のヒントになったり、自分を見つめ直すきっかけになりました。

これからは自分で気づき、考え、成長できるよう、周りの人への感謝の気持ちを忘れず責任のある行動をしていきたいです。そして、どんな環境でも、向上心や研究心を忘れずに上を目指して努力し続けます。

一緒に頑張ってきた同期のみんなありがとう。今まで支え応援してくれた方々、ありがとうございます。これからも暖かく見守ってくれたら嬉しいです。

◆第 101 期騎手候補生 S 君（令和 3 年 3 月修了）

この 2 年間を振り返ってみると、1 日 1 日が自分にとってとても濃く、騎乗経験のなかった僕にとって毎日が勉強でした。入所してからの 1 ヶ月間が一番長く感じました。集団生活、厳しい訓練、怖い教官で、技能審査は思うように順位が上がらなくて悩んだ時、悪いところを指導して励ましてくれた教官の先生方には感謝しています。

青帽になってから競走馬術が始まり、基本馬術とは違い乗馬経験が関係なくなり、僕にとって初めて同期と同じに立てて、教官の先生に木馬できついトレーニング法を教えてもらい、僕は同期の誰よりも木馬に乗ると決めました。下半身が少しずつ安定してきて、難しい馬にも乗せてもらい、初めて馬乗りが楽しく感じました。基本馬術では先生のアドバイスのおかげで、馬術大会で賞を取ることができ、また、JRA 対抗戦で 1M の障害を飛越できるまでになりました。僕にとって宝のような経験でした。

競馬場実習では毎日 25 頭近く乗らせていただきました。後半になると楽乗りになってしまい『研究心がないと上手にならない』と先輩騎手に言われて反省しました。馬のゲートの発走を間近で見させてもらい、苦手だったゲートを克服できました。

最後に 2 年間指導してくれた教官、生活をサポートしてくれた先生、そして馬乗りを一から教えてくれた愛馬、本当にありがとうございます。